

メイキャップ 状況 2月9日(月) 和歌山アゼリアR.C.
 岩橋 五郎、糟谷 元春、岸裏 廣澄、黒田 純一、豊田 英三、中江 遵義、
 野上 泰造、堀岡 忠男、松田 洪毅、森川 宏昭

にこにこ箱

ありがとうございました

尾崎 太郎さん 卓話のお礼を頂きました。
 和田 脩さん 昨年夏にメイクアップさせて頂いた時に(岩出R.C.) 前田幹事様にはお世話になり有りがとうございました。
 村田 昌之さん 尾崎太郎先生の卓話に感謝して。
 名手 功さん 妻に花を有難うございました。
 谷口 文利さん 2週連続で早退させて頂きます。
 中山 恒夫さん 尾崎太郎様をお迎えして。
 岸裏 廣澄さん 先週休ませて頂きました。
 武田 慎介さん 尾崎太郎様、本日卓話ありがとうございます。楽しみにしています。
 森川 宏昭さん 島委員長、ロータリーソングの練習ありがとうございます。
 上中 崇司さん 島委員長、ロータリーソングの練習ありがとうございます。
 阪神タイガース応援団一同
 八幡 建二さん 尾崎太郎先生、お忙しいなかありがとうございます。

前田 成蔵さん 今週もよろしく。
 樫畑 友洋さん 尾崎先生ようこそお越しいただきました。
【皆出席表彰】
 角谷 芳伸さん 5年皆出席表彰
 真野 賢司さん 1年皆出席表彰
 岡野 年秀さん //
 山本 進三さん //
 瀧川 嘉彦さん //



おめでとうございます!

【本日の累計 77,377円(計18名 19件)(お誕生日お祝い 525,000円 皆出席 135,000円 その他 2,000,531円) 累計額 2,660,531円】

本日の例会 2月19日(木) 12:30~ 於和歌山東急イン

- クラブフォーラム「50周年記念式典について」
- お誕生日お祝い
 岸裏 廣澄さん 2月16日 岩橋 五郎さん 2月22日
 島 公造さん 2月24日
- ピアノ演奏 中井 利枝さん
 再会(Gackt.C)
 鶴鶴(Gackt.C)

次回の例会 2月21日(土) 15:00~ 於和歌山東急イン

- 50周年記念式典

前回の例会 2月12日(木)

- 卓話 和歌山県議会議員 尾崎 太郎さん
- ロータリーソング 島 公造 ソング委員長
 「四つのテスト」
- ビジター紹介 森川 宏昭 親睦委員
 岩出R.C. 和田 脩 さん
- 出席報告 島 公造 出席委員長
 会員数54名(内出席規定適用免除会員9名)

2月12日(本 日)	40名	88.9%
1月29日(メイキャップ後)	45名	100%

市内ロータリークラブ情報	クラブ	日時	内容
	和歌山城南R.C.	2月19日(木)	クラブフォーラム「IDM発表」
	和歌山南R.C.	2月20日(金)	
	和歌山中R.C.	2月20日(金)	例会休会
	和歌山北R.C.	2月23日(月)	例会変更
	和歌山アゼリアR.C.	2月23日(月)	クラブフォーラム「CLPについて」
	和歌山R.C.	2月24日(火)	卓話「和歌山子ども虐待防止協会の活動について」和歌山県立医科大学名誉教授 小池 通夫さん
	和歌山西R.C.	2月25日(水)	
	和歌山東南R.C.	2月25日(水)	クラブフォーラム「国際奉仕」

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ 創立/1959年2月23日
 例会場/ルミエール華月殿 和歌山市屋形町2-10 TEL (073) 424-9392 例会日 木曜日 12時30分
 事務局/〒640-8142 和歌山市三番丁6関西電ビル5F TEL (073)432-4343・FAX (073)432-4845
 会報・広報委員会 嶋 弘伸 古屋 光英 笹島 良雄 武田 慎介 吉田 篤生



2008~2009年度 国際ロータリーのテーマ

「夢をかたちに」~Make Dreams Real~

2008~2009年度 和歌山東ロータリーのテーマ

「ロータリーの魅力再発見」

国際ロータリー第2640地区

和歌山東ロータリークラブ

URL: http://www.werc.jp
 E-mail: info@werc.jp

2009年 2月19日(木) 週報 / VOL.50 No.31 (通巻2394)



会長報告

八幡 建二 会長



皆さん こんにちは。ご存知のように来週の土曜日、我々の創立50周年記念式典が近づいてまいりました。各委員長さんにはご苦勞を掛けていただき、ありがとうございました。来週の木曜日は例会場を変更いたしまして東急インでリハーサルや準備等をしたと思いますので、どうか協力を宜しく願います。

話は変わりますが、ここ2~3日、暖かい日が続いておりまして、国道24号線の桜が1本だけ毎年早く咲くのですが、例年よりも2週間ほど早く満開になっているということで、是非一度見に行っていたらいいと思います。また南部梅林も丁度今が満開で、15日の日曜日にはイベントなどもあるそうです。

心配なのは、桜が2週間ほど早くなるということで、4月18日には我々の京都旅行を花見もかねてと思っておりましたが、その日まで桜が残ってくれていれればいいと思っております。以上、会長報告です。ありがとうございました。

幹事報告

前田 成蔵 幹事



李 亜琮さん、お土産をありがとうございます。

- ・こぼと学園便り.....回覧
- ・JCニュース.....回覧
- ・JC 2月度例会 2月18日 19:00~21:00 ビック愛 1階大ホール
- ・ガバナー月信.....回覧
- ・第2640地区 2007~2008年度のまとめ

ご挨拶

米山奨学生 李 亜琮さん



皆様こんにちは。お久しぶりです。先週の土曜日に日本に戻りました。今回は1年半ぶりの帰国でした。この3週間の間、家族と逢えて、中国の新しい発展を見て、友人に日本のことを紹介してすごく楽しかったです。今年の4月から私は4年生になります。これから病理学の研究と和歌山東ロータリークラブの活動がんばりたいと思います。今日はお土産を持ってきました。ウーロン茶の一つです。皆様是非もって帰ってください。本日はありがとうございました。

李 亜琮さん、お土産をありがとうございます。

卓 話

和歌山県議会議員 尾崎 太郎さん



皆さん こんにちは。ご紹介を頂きました和歌山県議会の尾崎太郎でございます。

私の経歴をご覧頂きますと学習院大学を卒業、名前も太郎で、麻生さんと同じなんです。なったときは「これはいい。次の選挙で使えるな」と思っていたら支持率が20%を切りまして、もうみんな麻生さんとツーショットのポスターを使わなかったり、自民党公任をとったりしております。

今、政治の枠組みが分らなくなっていると思います。国民もそうありますし、政治家自身もそうです。それはなぜかという、今から丁度20年前に冷戦が終わりました。ベルリンの壁が壊れてソ連が崩壊していく。ということはこの冷戦が終わって世界が新しい構造になりました。ここにすべての問題が起因していると思います。冷戦のときは保革伯仲といって、保守と革新がきれいに分かれていた。そのときの保守の定義とはなんだったのかという、革新でないものが保守だったのです。では革新とは何かという共産主義、社会主義のことだったのです。共産主義、社会主義とは、私有財産を認めないということに行き着くわけであります。私有財産を認めない勢力と、私有財産を認める勢力の二つに分かれていました。私有財産を認める勢力にもいろいろありますが、とりえず認めていればすべて西側陣営ということになっていたわけであります。だから争いがなかった。自民党の中でも私有財産を認めないという党員は一人もおられませんから、戦後自民党が集結して冷戦までは仲間割れせずにこれた。国民もなんか解らんけど、私有財産がなくなるのはいやですから自民党に投票してくれていたわけです。なんぼなんでも私有財産を認めない党に政権をとらせるということは、革命ということですから、そんなわけはないだろうと自民党も半ば安心しながらやってこられたわけです。ところが冷戦が終結いたしまして、とりえず私有財産を認めないという社会は発展が停滞するだろうということですから、国が私有財産を認める方向に舵を切りました。中国は共産主義を捨ててはおりませんが、しかし事実上私有財産を認めることは狭義的な共産主義からの決別を意味します。世界的に私有財産を認めないという革新はもうなくなってしまったということになります。そうすると保守の定義が大きく変わってまいりまして、随分温度差がでてまいりまして自民党の中でもいろんな動きがでてきて、民主党のなかにもいろいろ出てきて、国民からすると「いったいどうなっているのよ」ということになっています。

では今どうなっているかという、わずかながらもガチガチの共産主義者というのもないわけではありません。これが一方にあります。もう一つは私有財産を認める立場でありますけれども、小泉さんのような新自由主義といわれるものがあります。アメリカではこれをネオコンと呼んでおりましたが前のブッシュ政権はほとんどこの立場で、この人々の特徴は、市場に対して極めて大きな価値を持ちます。もう一方でリベラルと呼

ばれる立場。もう一つは本当の意味での保守主義。この4つの立場に分れていっております。

ガチガチの共産主義については説明せずとも、ソ連や中国で実験が行われ、概ね求心力というものがなくなってしまったので残る3つが座標軸になってくると思います。

私は因みに保守という政治的立場で日頃の活動をしています。

リベラルという、中国や朝鮮半島に対して割と物分りがいいような発言をしてハト派的で、保守といわれる人はどうも胸を張ったタカ派的な、皆さん漠然としたイメージであると思います。そういう傾向もないわけではありませんが一番大きな違いはどこかと申しますと、保守というのは理性に重きをおきません。リベラルは理性に重きをおく政治的立場というのがその根本です。遡りますと、デカルトという思想家から流れてルソーとかリベラルといわれる方々がいます。私 共の高校時代には倫理社会という科目がありまして、教科書を見ますとほとんどデカルトに連なる思想家ばかりが日本の教科書には出てくるわけです。この思想は理性というものに市場の価値をおく流れなんです。

少し前に「国家の品格」という本がベストセラーになりました。藤原正彦という数学者が書いた本です。数学ほど理性に重きをおく学問はほかにないと思いますが、この方が本の中で「理性、論理というのは突き詰めていくと必ず大きな間違いを犯しますよ」と書いています。保守は理性の代わりに何を重視するのかという「伝統と慣習」であります。

藤原正彦先生の本にありましたが、クルト・ゲーデルという「不完全性定理」を証明した数学者ですがその定理では、簡単に言いますと、それが完璧に見える物であっても最初的前提を証明することは不可能だというような理論であります。要するに最初的前提というのはそこにポンと置いたようなものでしかできないので、どんなに論理的に整合性のあるものでも最初的前提を正しいかどうかを説明することができない。だから最初的前提が間違っていれば論理を突き詰めれば突き詰めるほど行き着く結論はとんでもないことになるというのが数学的に証明されてしまったということなんです。長らく保守派といわれるものが「そんなことになるから止めておけ」といっていたことが数学的に証明されたわけです。これは非常に大きな発見だと思いますが、ではこういう思想家は誰かという「権利の章典」の英国のコークという政治家がおります。これに連なる保守が一大潮流であります。ところが日本の教育では、教科書に全く一行も載っていない、保守の理念や思想というものが全く根付いていないのではないかと思います。私共の哲学から言いますと、最初的前提で理性では絶対に正しいか間違っているかを判断できないのだから、昔からずっと続いてきた慣習や伝統に政治の基礎をおくべきだという立場なのです。

新自由主義という立場は、このリベラルと保守の真ん中に

あるのかというところでもなくて、思想的潮流は明らかにリベラルの方にあるのです。要するに理性に重きをおきます。頭で考えた政策に演繹してって政策を紡ぎ出すのがこの人たちの特徴であります。簡単に言いますとリベラルは演繹で保守は機能ということであります。進むべき国家像やこうあるべきだというものを考えて、そこから演繹して施策をつくっていくとリベラルや新自由主義の政策になります。

保守の政策の作り方というのは、こうあるべきだという発想ではなくて、こういう国なのだからこうですよという積み上げ方をしてまいります。

例えば、皇室典範の改正などでは、小泉さんは明らかに思想的には新自由主義ですからリベラルの方たちとは違います。なぜならリベラルは市場に重きをおかずどちらかという保護的な施策を好みます。その点では新自由主義と真っ二つに分かれますが、しかし理性に重きをおく点では共通しておりますから、天皇皇室のあり方を考えるとき、自分たちの頭で制度設計ができるとしてしまふところに共通点があります。一方保守といわれる人たちは、とてもじゃあないけれどもそんな何千年も続いたもののあり方を今の人間の頭で設計なんかできるわけがないだろうと考えますので大反対をします。しかし小泉さんはやっぱり改正ということで、女性の天皇でもいいじゃあないかという発想します。

今日このロータリーソングを拝見して「真実かどうか」、これは大変大切なことでもあります。しかし真実かどうかというのは誰がどのようにして判定するのでしょうか。どこかの学者が頭の中で考えてこれは真実ですといったところで数学的に厳密に言うならば最初的前提を置かない限りそれが正しいかどうかを論理的には絶対説明できない。ですからどれが真実かというのは実は誰もいえない。しかし我々保守から言わせるならば何百年も何千年も続いたものはとりえず真実だということにしておくことが一番無難じゃあないかという政治的立場であります。

リベラルの人たちがどんな政策をしているのかといいますが男女共同参画社会基本法というのがあります。この中では、日本の慣習や習俗が現実の男女共同参画社会の理念に合わなければ変えていけ、というようなことが書かれています。我々が男らしさや女らしさと思ってきた自分たちの文化が男女共同参画社会の理念に合わなければその文化の方を変えてしまえという法律です。だけどその法律を書いた官僚のほう間違っていたとしたらこれは大変なことになるわけで、それが正しいかどうかなんて誰もわからないわけです。この慣習がダメだと誰が判断するのでしょうか。例えば大相撲の土俵に女性が上がってはいけないという慣習があります。これは取り立てて女性を差別しているとは思いませんが、しかしこれは女性差別だから改めよという圧力がある程度あるのかもしれない。これを官僚の考えた理性によって捻じ曲げていくことの方が怖いのではないかと考えるのが保守の考え方です。

フランス革命というのは、自由・平等・博愛ということで日本の教科書では人類史上に輝く歴史的な業績のようにとられておりますが、ヨーロッパ各国は距離が近いですから、こんな

ことが自国に起これば大変なことになると。当時のフランスは2500～600万人の国民ですが、一夜にして数十万人が裁判なしに殺された。大統領も何もかもギロチンで殺されるということが起こったわけです。新生フランスでは「理性を神とす」としました。既存の神を廃止して、人間の頭で考えたことですべての制度を運営する。こういったとき、一番狂気に走っていくというのが我々の考えです。

新自由主義とリベラルには、理性を是とする共通点があります。経済政策において、自由主義というのはある程度市場に任せておけばいいというまいくだらう。これはある面では真実ですが、あまりにもここから演繹して政策を紡いでいっただとすると、成れの果てはあのアメリカの経済惨状になるわけです。理性によって経済政策をした場合の市場主義というのは、こういう壊滅的な富の崩壊、社会の崩壊につながります。理性でつくったソ連が数千万人を殺し、毛沢東の文化大革命も一説には数千万人の方が亡くなった。悪政を誇ったルイ16世も裁判なしに人民を虐殺したことはないわけでありまして、実際に死刑となった数もごく僅かであつたらしいです。この王政や皇室の存在はそういう意味で歴史的伝統的には国民の自由や財産を保障する一番大きな安全弁になると私共は考えます。フランス革命の頃は人間の欲望が剥き出しになり正義の名の元に蛮行を繰り返して行き着く先はヨーロッパではヒトラーの出現に帰結するわけであります。ヒトラーは決して自分で独裁者になったわけではありません。世界一民主的であるといわれたワイマール憲法を背景に正当な手続きを経た選挙によって第一党をとり首相になり全権委任法という法律を通して独裁権を手にするわけです。すべてこれは民主主義の結果なのです。

保守は伝統慣習を保守することに政治的意義を見出しますので、あまり経済的なことに発言をするということがありません。無策だ何だといわれますが、これこそ、経済というわけのわからないものこそ人間の頭で制度設計して政策を作っては余計にダメだと考えるわけです。10年ほど前にアメリカでノーベル経済学賞をとったショールズという学者が作ったLTCMという大きなファンドが破綻しました。有名な事件です。ソ連崩壊を予測できませんでした。計算すると数百万年に一回の確率だったらしいです。10年経って学んだかという、今回のサブプライムローンの経済危機、これも計算したら数百万年に一回の確率です。10年の間に数百万年に一回と数万年に一回が起こるのはどう考えてもおかしい。だからこれは最初の実験かどうかのところでこの人たちは誤っていたんだと思います。LTCMを作ったノーベル経済学賞の学者でも誤ります。そのショールズが最近「結局のところ市場というのは解らないということが解った」といっています。

だから謙虚に歴史の英知に身を委ねる。国民の力を信じるというのが保守の考え方です。

個々それぞれに濃淡はあるでしょうが、政治家をこういう目でご覧いただければよく解ると思います。政治家を評価するとき、極めて有効な座標軸になると思います。政治の世界に大きなドラマが待っていると思います。

本日はお招きいただきまして、ありがとうございました。